

医事委員会より

医事委員長 小川健

1. アンチ・ドーピングについて

2. 茨城県内陸上競技大会において救急搬送を要した症例に関する検討

2023年度国内競技者のアンチ・ドーピング規則違反の公表

番号	決定期日	競技種目	競技者氏名	検出物質もしくは違反内容	制裁内容	備考	更新日
2023-003	2023年10月5日	陸上競技		プレドニゾン (S9) プレドニゾン (S9)	・競技成績の失効 ・資格停止3ヶ月 (2023年5月30日～)		2023年12月14日
2023-005	2024年1月15日	陸上競技		ナンドロロン (S1)	・競技成績の失効 ・資格停止3年間 (2023年10月12日～)		2024年2月15日
2023-007	2023年12月19日	自転車		メルドニウム(S4)	・競技成績の失効 ・資格停止3年間 (2023年10月13日～)		2024年2月19日
2023-008	2023年11月30日	陸上競技		トリメタジジン (S4)	・競技成績の失効 ・資格停止3年間 (2023年10月17日～)		2023年12月27日
2023-009	2023年12月11日	ボディビル ディング競技		第2.6.1項違反 テストステロン(S1) トレンボロン(S1) インスリン様成長因子(S2)	・資格停止3年間 (2023年10月24日～)		2024年1月16日
2023-012	2024年12月24日	自転車		メチルエフェドリン(S6)	・競技成績の失効 ・資格停止2年間 (2023年12月21日～)		2025年1月21日
2023-014	2024年8月27日	自転車		ツロブテロール(S3)	・競技成績の失効 ・資格停止14ヶ月 (2024年4月26日～)	資格停止期間は、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構JSAA-DP-2024-001仲裁判断（2025年1月10日）が最終決定となる。 https://www.jsaa.jp/award/pdf/DP/DP-2024-001.pdf	2025年3月5日

痛み止めとして医師から処方されたものが実は禁止薬物のステロイド剤であったという事例も、

薬物等の使用に際して

使用可能薬を確認する方法

・日本スポーツ協会の使用可能薬リスト

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/doping/tabid537.html>



・日本薬剤師会「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック」

<https://www.nichiyaku.or.jp/activities/anti-doping/about.html>



治療のために禁止物質を使用する必要がある場合

・治療使用特例（TUE）の申請手続きが必要

<https://www.realchampion.jp/what/health/tue/>



(<https://iuau.jp/news/2025/anti2025.pdf>)



2025年のアンチドーピング 禁止表変更点→なし

2024年度～

・トラマドールが禁止物質に追加
（競技会外検査では使用可能）
商品名：「トラムセット」「トアラセット」など

公益社団法人日本学生陸上競技連合医事委員長
茨城陸協 医事委員会 副委員長 蒲原一之先生

茨城県内陸上競技大会において 救急搬送を要した症例に関する検討

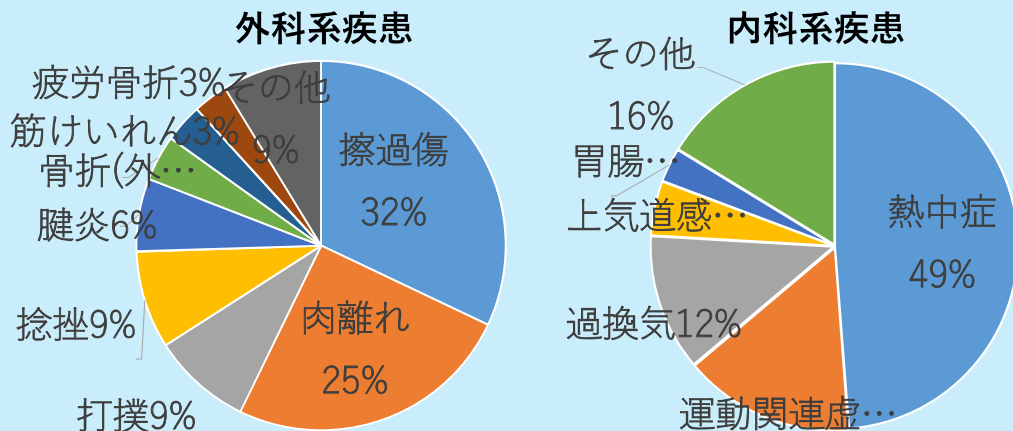
○川瀬宙夢¹⁾、松浦智史²⁾、小川健³⁾、田中健太⁴⁾、
浦原一之⁵⁾、鎌田浩史²⁾、向井直樹⁶⁾

1. 地域独立行政法人茨城県西部医療機構茨城県西部メディカルセンター病院 整形外科
2. 筑波大学医学医療系 整形外科
3. 独立行政法人国立病院機構水戸医療センター 整形外科
4. 医療法人慈厚会野上病院 整形外科
5. 国立スポーツ科学センタースポーツクリニック
6. 筑波大学体育系 外科系スポーツ医学領域

対象

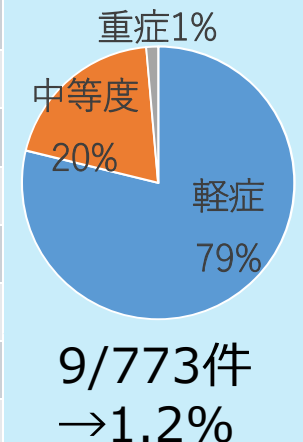
- 期間：2012年1月から2023年12月
- 茨城県内で開催された
受診記録が確認できる大会
- 122大会214日間 の計773件

疾患割合



重症例 (救急車での搬送を要した例)

1	脳震盪	男	16歳	ハードル
2	大腿骨骨幹部骨折	男	16歳	短距離(リレー)
3	痙攣発作	男	15歳	中距離
4	足関節骨折	男	15歳	跳躍
5	脛骨骨折	女	13歳	ハードル
6	膝周囲骨折	女	17歳	長距離
7	大腿骨頸部骨折	女	80歳	応援
8	熱中症	男	14歳	長距離
9	熱中症	女	高校生	中距離



考察

- 陸上競技大会における救急搬送を有する重症患者数をまとめた報告は狩猟しえた限りでは無かった

【参考】

- 東京マラソン2024
36697人が出走、1006人が救護所利用、6人が救急搬送
(東京マラソン公式サイト 2024 救護)
- 2019ドーハ世界陸上 長距離と競歩
305人が出場、75人が途中棄権、90人が救護室を利用
1人が救急搬送
(Sebastien et al:bjssport, 2021)

まとめ

- 1日あたりの受診者数は選手・大会関係者ともに増加傾向
- 重症例は1%程度
- 受診者特性を理解し、迅速な対応が求められる

考察

- 毎年推定50万人の選手が米国の大学陸上競技に参加し、約6%が脳震盪を起こす
(Irick E:NCAA sports sponsorship and participation rates report, 2023)
- インターハイ出場選手の16.1%、高校駅伝出場選手の32.9%で疲労骨折の経験があった
(田原ら：日本臨床スポーツ医学会誌, 2021)
- 熱中症はアスリートの突然死の原因の1つ
- 熱中症の早期発見、早期冷却により臓器損傷と死亡率を低下させる
(Navarro et al:Current Sports Medicine Reports,2017)

本講義のまとめ

- 1.アンチ・ドーピングについて
- 2.茨城県内陸上競技大会において救急搬送を要した症例に関する報告

今後の医事委員会の活動

- 1.救護
- 2.障害予防

相談窓口の設置
(iji@ibariku.com)